

# 留 学 報 告 書

記入日: 2014 年 7 月 18 日

所属学部／研究科・学科／専攻	政治経済学部
留学先国	アメリカ合衆国
留学先高等教育機関名 (和文及び現地言語)	和文: オレゴン大学 現地言語: University of Oregon
留学期間	2013 年 9 月～2014 年 6 月
留学した時の学年	3 年生(渡航した時の学年)
留学先での学年	3 年生(留学先大学で在籍した学年)
留学先での所属学部等	Economics
帰国年月日	2014 年 6 月 20 日
明治大学卒業予定年	2015 年 3 月



留学先大学について	
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他
学年暦	1 学期: 9 月下旬～12 月中旬 2 学期: 1 月上旬～3 月下旬 3 学期: 4 月上旬～6 月中旬
学生数	約 22,200 人
創立年	1876 年
特徴	オレゴン州で二番目に大きい都市であるユージーンに位置する、創立百周年以上になる伝統ある州立大学。在学生や卒業生は“Ducks”と呼ばれる。それにちなんで学校のマスコットキャラクターはキャンパスカラーの緑色(または黄色)の服を着たダナルドダック、もといオレゴンダックとなっている。キャンパスは非常に広く、芝生や木々で飾られており自然豊か。授業を行う棟も多種多様であり移動する距離も馬鹿にならないので、キャンパス中を自転車やスケートボードで移動する人を見るのはまったく珍しくない。スポーツは強く、特にアメリカンフットボールのチームが有名。他の州で Oregon Ducks と言った際はオレゴン大学の学生ではなくこのチームのことだと思われた。またユージーン市は“Track town USA”としても知られ、春から夏にかけて大学敷地内にある陸上競技場では全米選手権などの大会が行われる。

留学費用項目	現地通貨(USドル)	円	備考
授業料	6,624	675,600 円	12 credit hours で\$2208。交換留学なので実際には支払う義務なし
宿舍費	10,792	1,100,000 円	Standard Double Room(宿舍費)+ Standard Meal Plan(食費)このふたつはまとめて引かれる
食費	500	50,000 円	上記の別にかかった食費の概算
図書費	350	35,000 円	主に教科書代
学用品費	50	5,000 円	ノートやファイルなど
教養娯楽費	0	0 円	
被服費	500	50,000 円	
医療費	0	0 円	
保険費	2,164	218,700 円	形態: 明大マートを通してのもの、オレゴン大学側のとで合計二つ
渡航旅費	2,500	250,000 円	
雑費	500	50,000 円	
その他		円	
合計	17,356	1,735,600 円	授業料は支払っていないとする

### 渡航関連

渡航経路:(往路)成田空港→ポートランド空港 (復路)オヘア空港(シカゴ、観光していた)→成田空港								
渡航費用 <table border="1"> <thead> <tr> <th>チケットの種類</th> <th>エコノミークラス</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>往路</td> <td>109,110 円</td> </tr> <tr> <td>復路</td> <td>149,920 円</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>259,030 円</td> </tr> </tbody> </table>	チケットの種類	エコノミークラス	往路	109,110 円	復路	149,920 円	合計	259,030 円
チケットの種類	エコノミークラス							
往路	109,110 円							
復路	149,920 円							
合計	259,030 円							
渡航に際して利用した旅行会社やガイドブックを教えてください。								
楽天トラベル、エクスペディア								
取得したビザについて教えてください。								
ビザの種類: J-1								
ビザ取得方法: 所定の書類を揃えて在日アメリカ大使館へ申込み、面接を受けた後、一週間程度でパスポートにビザが貼られて返送される。								
その他渡航やビザ取得に関してアドバイスがあれば教えてください。								
当たり前だが何事も早めにやるのが良い。ビザはどんなに遅くとも出国予定の一か月前には手元にあるようにしておきたい。飛行機のチケットも同様に早めにおさえておきたい。また何かしらの理由で飛行機が飛ばないことも考えると、余裕が一日もない日程を組むのは避けるべきである。								

## 滞在形態関連

### 1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎など)

大学の on-campus の寮

### 2) 部屋の形態

個室 OR  相部屋(同居人数 1 人)

### 3) 住居を探した方法:

オレゴン大学側からの紹介。

### 4) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)

驚くほどルームメイトとは気が合い、トラブルらしいトラブルは一度もなかった。寮自体は築六十年近い古いものであったが、別に住む分には特にこれといった不満もなかった。私の場合は寮の申し込みをした際に自分の生活習慣について細かく答える必要があったが、今思えばあれがしっかり機能していたのだと思う。たとえば私は音楽を聞く際にヘッドフォンを使うと回答したのだが、私のルームメイトは同じくヘッドフォンを使う一方、他の部屋ではスピーカーを使ってほとんど常に大音量でダンスミュージックを流し続けるような人もいた。

## 現地情報

### 1) 現地で病院にかかったことはありますか? 大学内の医務室/診療所や付属病院等で医療サービスを受けることは可能でしたか?

利用する機会が無かった

利用した:

### 2) 学内外で問題があったときには誰に相談しましたか。留学先大学に相談窓口はありましたか。

主にオレゴン大学の留学アドバイザーに相談していた。留学生に対応する為の International Affairs という窓口があり、私はよくそこのお世話になった。もっとも明らかに担当が違う話(履修相談など)の場合は経済学部の事務室など、別のところに相談しに行くこともあった。

### 3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

何か大きな犯罪(窃盗・強盗・暴行・麻薬の使用)があった場合は、ユージーン警察およびオレゴン大学警察から大学のメールを通して通知が送られてきた。とはいえユージーンは全体的に静かで安全な街であり、私個人は慣れていないならば一人で歩かない、人がいないところには長居をしない、程度の対策しか取らなかった。盗難などを含む犯罪に巻き込まれることは一度もなかった。

### 4) パソコン、携帯電話、インターネット(接続について)現地での利用はいかがでしたか。

(例:寮のインターネット接続が不安定で1週間に1度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WiFi 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

大学全体を大学の wi-fi がカバーしている。一方で私の住んでいた寮に関しては古いために wi-fi の設備が整っておらず、有線(イーサネット)接続のみだった。しかし繋がりにくいということはなく、自分で持ち込んだ wi-fi のデバイスを接続して部屋でも無線でつないでいた。街中でもモールや商店では基本的に wi-fi が飛んでいる。パスワードが設定されている場合もあるが、店員に聞けばたいてい教えてもらえる。

### 5) 現地での資金調達はどうに行いましたか?(例:現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

市内に支店があったので、到着後に Bank of America の口座を開設し、そこに親から送金してもらった。パスポートと住所があれば口座は開設できる。クレジットカードも Visa と Mastercard の二種類を持っていた。クレジットカードの引き落とし口座を奨学金の受け取り口座にすることで手間を省いていた。

### 6) 現地では調達できない日本から持っていきべき物があれば教えて下さい。

意外と必要なものはたいていこちらでも買うことができた。とはいえやはり医薬品や化粧品など、替えの効かないようなものはなるべく日本から持っていき方が良いかもしれない。

## 進路について

### 1) 進路

就職     進学     未定     その他:

### 2) 進路決定の際に参考にした資料、図書、機関など

### 3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。(内定を得た企業すべての名前、或は入社すると決定した企業の名前のみでも構いません)

4)就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスがありましたらお書き下さい。 (例: 留学中の就職活動に向けた準備, 帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。)
5)進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。
6)進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)がありましたらお書き下さい。
7) その他を選択した方は、留学希望者に向けたアドバイスがありましたらお書き下さい。

### 学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入してください)

1)留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
36 単位	<input checked="" type="checkbox"/> 未定 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由: )
2)以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人々へのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
EC 410 Public Economics: Taxation	公共経済学・税制度
科目設置学部・研究科	Economics
履修期間	Fall Term (9月～12月)
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Lecture
授業時間数	1週間に 80 分が 2 回
担当教授	Professor Caroline E. Weber
授業内容	アメリカの実際の法律に基づいた税制度に関して研究する。所得控除や婚姻による税負担の変化などについて実際の例を用いての講義が行われた。
試験・課題など	homework が 6 回、midterm が 2 回、final には通常の試験の他に paper が更に 1 題出た。
感想を自由記入	400 番台の授業であったが、明治大学で一年生の頃受けたレベルのミクロ経済学の復習から入ったので正直驚いた。課題は基本的に授業を聞いていけば解けた。final の paper だけは実在の政策について自分が social planner の立場だとしたらどうするかを論ぜよというもので、突然難易度が跳ねあがった印象が強かった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
EC 360 Issues in Industrial Organization	産業組織論
科目設置学部・研究科	Economics
履修期間	Spring Term (4月～6月)
単位数	4
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Lecture
授業時間数	1週間に 80 分が 2 回
担当教授	Doctor Joseph Wyer
授業内容	アメリカ国内における独占禁止法(シャーマン法・クレイトン法)の運用の実態を見ながら、自由競争市場における企業の経済活動について研究する。
試験・課題など	homework が 5 回、pop quiz が 5 回、midterm が 2 回、final が 1 回。
感想を自由記入	こちらも最初はマクロ経済学の基本的な復習から入った。具体的な例を用いて授業を進めてくれたので内容の理解はし易い方だった。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
HIST 319 Early Middle Ages Europe		中世ヨーロッパ前期	
科目設置学部・研究科	History		
履修期間	Fall Term (9月～12月)		
単位数	4		
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	Lecture		
授業時間数	1週間に50分が3回		
担当教授	Professor Lisa Walverton		
授業内容	主にキリスト教の発展と展開に軸を置きながら、西ローマ帝国消滅後からカール大帝登場までの西ヨーロッパを研究する。		
試験・課題など	short quiz が5回、midterm paper が2回、final paper が1回。		
感想を自由記入	授業一コマごとにおおよそ30ページ強のreadingが課せられる。授業ではその内容を踏まえた質問を教授がしてくるので、予習なしだといっただけで精一杯になる。もともと質問に答える面子は5人程度でほとんど固定されていた。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
HIST 399 Special Study: Medieval Warfare		特別講義: 中世の戦争	
科目設置学部・研究科	History		
履修期間	Fall Term (9月～12月)		
単位数	4		
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	Lecture		
授業時間数	1週間に50分が3回		
担当教授	Professor Michael Furtado		
授業内容	古代ローマのカンネーの戦いから中世イングランド・フランスのクレシーの戦いに至るまで、戦争の形態とそれに伴う技術の発展について研究する。		
試験・課題など	short quiz が3回、midterm が1回、paper が midterm と final の両方を合わせて3回。		
感想を自由記入	なかなか日本では受けられないような授業であったので終始興味深かった。教授が知り合いの中世イタリア剣術の研究者グループを連れてきて、目の前で甲冑を着けての演武を見せてもらったのが一番印象的だった。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
ANTH 234 Pacific Island Societies	太平洋諸島の社会
科目設置学部・研究科	Anthropology
履修期間	Winter Term (1月～3月)
単位数	4
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Lecture + discussion
授業時間数	1週間に 80 分が 2 回
担当教授	Professor Aletta Biersack
授業内容	先史時代の太平洋諸島への人類の定住から、近年諸島部の国々が抱えるようになった問題についてまで幅広く研究する。1 回 80 分の lecture の他に 1 回 50 分の discussion が付随している。こちらは週に 1 回。
試験・課題など	midterm が 1 回、final が 1 回。他に discussion class での評価が授業回数分、つまり合計 10 回分ある。
感想を自由記入	教授も discussion class を担当した GTF も長年のフィールドワーク経験がある人たちで、その経験からの講義はとても興味深かった。GTF が kava という南太平洋地域ではポピュラーな嗜好品(飲み物)を実際に持ってきて学生たちと教授にふるまい始めたときは驚いた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
HIST 302 Modern Europe	近代ヨーロッパ
科目設置学部・研究科	History
履修期間	Winter Term (1月～3月)
単位数	4
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Lecture
授業時間数	1週間に 80 分が 2 回
担当教授	Professor Aleksander Dracobly
授業内容	フランス革命から第一次世界大戦前夜までの近代ヨーロッパを政治史・経済史・美術史と視点を変えつつ研究する。
試験・課題など	short answer と essay を含む quiz が 2 回、同様の形式の midterm が 1 回。こちらは online かつ open-note。final のみ教室での close-note 形式だった。
感想を自由記入	教授の喋り方が少々一本調子で授業中に飽きてしまうことが多かった。また試験も final を除いて online で open-note なので、学生側は学生側で全体的にやる気のなさが漂っていた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):	履修した授業科目名(日本語):
HIST 320 High Middle Ages Europe	中世ヨーロッパ中期
科目設置学部・研究科	History
履修期間	Winter Term (1月～3月)
単位数	4
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	Lecture
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回
担当教授	Professor Lisa Wolverson
授業内容	10～13 世紀頃のヨーロッパの軍事史・経済史・政治史を手紙や手記などの原資料を活用して研究する。
試験・課題など	paper が 2 回、midterm が 1 回、final が 1 回
感想を自由記入	HIST 319 の続きに当たる授業。教授の授業を好きになったので受講することにした。しかし final では評価全体の 10%に相当として文献当て問題が出題され、私含め多くの学生から不評を買っていた。

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
HIST 241 War in the Modern World II		現代の戦争	
科目設置学部・研究科	History		
履修期間	Spring Term (4月～6月)		
単位数	4		
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	Lecture		
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回		
担当教授	Doctor Amiel Angeles		
授業内容	第二次世界大戦期からイラク戦争までの純粋な技術発展、あるいは政治情勢の変化を受けての戦争技術の変遷を研究する。		
試験・課題など	pop quiz が 3 回、midterm が 2 回、final が 1 回。基本的に essay 形式。		
感想を自由記入	先生はフィリピン人であり、なんとなくだが私にとっては聞き取りやすい英語を話しているように思えた。授業履修者 100 余名のうち、20 人前後が軍隊経験者だったことに驚いた。		

履修した授業科目名(留学先大学言語):		履修した授業科目名(日本語):	
CLAS 202 Roman Life and Culture		古代ローマの生活と文化	
科目設置学部・研究科	Classics		
履修期間	Spring Term (4月～6月)		
単位数	4		
本学での単位認定状況	0 単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)		
授業形態	Lecture + discussion		
授業時間数	1週間に 50 分が 3 回		
担当教授	Professor Sander Goldberg		
授業内容	共和政から帝政ローマの文化や風俗について、原資料や復元図などを用いて研究する。ANTH 234と同様、1回 80 分の lecture の他に 1回 50 分の discussion class が週に 1 回ある。		
試験・課題など	midterm が 2 回、final が 1 回。どちらも短答形式・正誤問題・essay とほぼあらゆる形式で出題された。		
感想を自由記入	授業は基本的にパワーポイントのスライドを用いて行われた。授業は興味深いものであり、教授もいい人であったが、試験問題だけは満足に解ききれない量の問題を出してくるので苦労した。		

留学に関するタイムチャート
---------------

**留学までの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。**（形式は簡条書きなど簡単なもので構いません）

2013年 1月～3月	1/18 出願に必要な書類を明治大学側に提出 1月～2月 引き続き明治大学で語学力向上の為授業に取り組む
4月～7月	4月～7月 通常の英語の授業の他、政治経済学部で開講されていた英語で社会学を扱う授業を履修する 4月上旬 奨学金の申請 4月中旬 オレゴン大学から DS-2019 を受け取る 6月～7月 おたふく風邪の予防接種を二回に分けて受ける 7/1 寮を申請する。予防接種の記録を送る 7/6 明治大学で出発前オリエンテーションに参加 7/20 明治大学に留学中の留学生たちのフェアウェルパーティーに参加
8月～9月	8月中旬 J-1ビザを申請、受理される。航空券の手配などを済ませる 8月下旬 明治大学を通して保険を申し込む。携帯電話のレンタルを手配 9/16 出国 9/18～26 留学生向けオリエンテーションに参加 9/27～29 全体オリエンテーションに参加 9/30 秋学期開始
10月～12月	10月上旬 prerequisite に関して経済学部の窓口と交渉を重ねる 10月中旬 Bank of America で口座を開設。親から送金してもらう 12月上旬 一時帰国の為に必要なサインを DS-2019 に記入してもらう 12/11 期末試験。秋学期終了 12/12～15 西海岸を旅行 12/16 日本に一時帰国。1/3 まで滞在
2014年 1月～3月	1/3 再出国 1/6 冬学期開始 1/18 Japanese Student Organization の一員として Japan Night を開催 3/7 ユージーン市内にある Japanese Immersion School のひとつ Yujin Gakuen にボランティアとして訪問 3/21 期末試験。冬学期終了 3/22～3/30 春休み
4月～7月	3/31 春学期開始 4月～6月 帰国後の予定を立てはじめる 6/12 期末試験。春学期終了 6/13～19 東海岸を旅行 6/20 日本帰国。留学終了 6月～7月 諸々の書類を作成・手配・提出する

## 留学体験記

留学しようと決めた理由	大学生のこの時期を逃せば、もう外国で長期にわたって自由な時間を過ごせる機会は得られないと思ったからです。確かに留学に行くとなると金銭的な負担も大きく、更には就職活動にも遅れを取ってしまうなど、難しい話もあります。しかし、それでも今この時に得られる経験を逃したくないと思ったことが、留学しようと決めた一番の理由でした。
留学のためにした準備、しておけば良かったと思う準備	語学力の向上は現地での生活の全ての基礎になるので、どれだけやっていても損はありません。しかし単純な聞き・話しの能力を向上させるだけではなく、初対面の人であっても物怖じしないこと、一度で伝えられなくても繰り返し伝える努力をすること、わからなかった時は正直にわからないと言って聞き返すことなど、コミュニケーションに関する心構えを日本に居るうちからもっと備えておけばよかったと思っています。
この留学先を選んだ理由	オレゴン大学は他の多くの大学と違って、2期(semester)制ではなく4期(term)制を採用しており、現地に行ってから興味のある分野が変わった場合に柔軟に対応できると思ったことが理由の一つです。もう一つの理由としては、以前フィラデルフィアに留学した姉から、留学するなら東海岸よりも西海岸の方がいいとアドバイスを受けたということがあります。
大学・学生の雰囲気	オレゴン大学、というよりもユージーン市は基本的に親切で、おおらかな人が多い場所でした。オレゴン州で二番目と言ってもそれほど大きな街というわけでもなく、ほとんど誰も無駄に急いだりすることなく過ごしています。基本的には州内出身者が多数を占めていますが、隣接するカリフォルニア州・ワシントン州からの学生も多くいました。
寮の雰囲気	寮に住んでいるのは九割以上が一年生でしたが、留学生の私も特にどうということなく受け入れてくれました。オレゴン大学のアメリカンフットボールチームの試合があると寮全体が異様に盛り上がり、点数が入る度に大騒ぎになるので、試合を見ていなくても内容と経過がわかるという具合でした。
交友関係	初めの頃は他国からの留学生と多く交流していましたが、一ヶ月もする頃にはアメリカ人の友人も多くできるようになりました。Japanese Student Organizationという日本人と日本文化に興味のあるアメリカ人が集まるサークルに参加し、イベント開催の準備などで交友を深め、一緒に休日を過ごしたりしていました。また、ルームメイトとは今でも連絡を取り合う仲です。
学習内容・勉強について	私は経済学を専攻していますが、明治大学での単位が足りているので、専攻外であっても興味のある歴史学や人類学の授業も多く履修していました。どの授業であっても専門的な単語などは理解が追いつかないことがありましたが、とりあえずその場ではメモを取っておいて、後で教授のoffice hourに出向いて質問をする、というやり方で進度を周囲に合わせていました。
課題・試験について	課題で一番苦労したのは paper(レポート)でした。最初に自分だけで推敲して提出したところ、アイデアは悪くないがコミュニケーションが良くない(=英語としておかしい点が多く、文意不明瞭なところが多い)と言われ、低い評価を受けてしまいました。そこで学内にある writing center を利用して直してもらったり、ルームメイトに依頼して細かい文法を確認してもらったりしました。試験は study guide という学習の手引きが基本的に出されるので、それに従って準備すれば大丈夫でした。
大学外の活動について	Japanese Student Organization の活動の一環としてでしたが、ユージーン市内にある Japanese Immersion School(日本語で全ての授業を行う学校)のひとつ、Yujin Gakuen が開催したイベントにボランティアとして参加しました。
ある平日のスケジュール	8時:起床, 8時30分:朝食, 9時~10時30分:授業, 11時~13時:自習, 13時:昼食, 14時~16時:自由時間, 16時~17時20分:授業, 18時~19時:サークル活動, 19時:夕食, 20時~22時:勉強, 23時:ルームメイトとゲーム, 0時30分:就寝
ある休日のスケジュール	10時:起床, 11時:朝食兼昼食, 12時~16時:友人たちとモールで買い物・軽食, 17時~18時:自習, 18時:ルームメイトと夕食, 19時~21時:読書, 21時~0時:ルームメイトとゲーム, 0時:夜食, 2時:就寝
留学を志す人へ	自分の行ったこと全てが経験になるということをぜひ知っておいてもらいたと思います。office hour での教授との会話やレジでの世間話に始まり、ただなんとなく街をふらふら散歩してみることも、全て自分の経験になります。そのためには決して留学生同士、とりわけ日本人同士で固まることなく、積極的に現地の人々の間に入って同じように暮らし、同じように振る舞ってみることが大切です。どのように時間を過ごすかは全て自分自身の判断です。これから留学に行く方々には、限られた時間の中で少しでも多くの人・ものに触れ、多くの経験を積んで帰って来るように願っています。